

令和4年度第3回埼玉県南西部地域医療構想調整会議
議事録

1 日 時

令和5年3月2日（木）19:00～19:45

2 場 所

オンライン（ZOOM）

3 出席者

【委員】18名、代理参加1名

井上達夫委員（会長）、滝澤義和委員（副会長）、須田勝行委員、鈴木慎委員、畑中典子委員、原彰男委員、飯田惣授委員、鈴木義隆委員、菅野隆委員、富家隆樹委員、佐藤千春委員、今井慎委員、増尾猛委員、大熊克之委員、皆川恒晴委員、鈴木貴久委員、池田康幸委員、湯尾明委員、大野久芳委員（代理）

【アドバイザー】

埼玉医科大学医学部 特任教授 宮山徳司 氏

【事務局】

医療整備課職員、朝霞保健所職員

【傍聴人】

3名

4 議事

(1) 議事1「公立・公的・民間医療機関における対応方針の策定・検証・見直しについて」

資料1及び2により保健医療政策課から説明。

委員から質問等はなかった。

(2) 報告1「埼玉県地域保健医療計画に基づく病院整備計画について」

資料3-1ないし3-3及び参考資料により医療整備課から説明。

委員から質問等はなかった。

(3) 報告2「令和3年度病床機能報告について」

資料4-1ないし4-4及び参考資料1により保健医療政策課から説明。

委員から質問等はなかった。

(4) 報告3「外来機能報告及び紹介受診重点医療機関について」

資料5及び参考資料2により保健医療政策課から説明。

委員から質問等はなかった。

○アドバイザーからの意見

2025年に向けて、病床の新規整備を行っているのは埼玉県その他、一部の都府県に限られる。このため、約40の道府県で病床の削減、あるいは外来医療の充実、介護との一体性確保に向けた議論が早期から行われてきた。本県も、このたび、病床整備についての議論はほぼ完了し、今後は病床の有効活用に向けた議論の加速が必要。

南西部では課題やめざす姿において、当初から外来医療あるいは受け皿の充実を掲げていた。病床の機能維持を前提とした上で、クリニック等との連携強化による予定入院患

者数や手術件数の増加、消防や後方病院等との連携強化による救急搬送患者の増加、後方病院や介護保険施設等との連携による平均入院日数の短縮といったことを具体的に進めていく必要がある。

また、今後、虚弱高齢者の激増が予想されることから、入院治療後の受け皿を充実させるための取組として、例えば、病院看護師の積極的な家庭訪問と地域ケアネットワークとの交流、あるいは病院看護師等による特別養護老人ホームスタッフの教育研修等も必要。

これらは現段階では診療報酬上で十分に配慮された項目ではないが、病院本体の報酬に好影響を与えるもので議論の価値があると考えます。

(5) その他

委員の任期及び人事異動等による変更があった場合の連絡依頼につき、朝霞保健所から説明。

委員から質問等はなかった。

5 閉会